令和５年６月６日　市長定例記者会見　会見録

◆司会
それではただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長
はい、よろしくお願いします。まず、このたびの災害により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。静岡市では被災者支援や道路、河川などの災害復旧を進めることで、一日も早く被災された皆様の日常生活が取り戻せるよう取り組んでいるところです。特に先回の台風 15 号の災害、そして今回と２度にわたり大雨で浸水被害が発生をしたところがあります。そういった場所について早急に総点検を実施をして緊急改善をすることで、少しでも市民の安全安心が改善されるよう努めてまいりたいと思います。本格的なものはさらに取り組んでいくわけですけれども、とにかく緊急にやるべきこと、これについてはすぐに取り組んでまいりたいと思います。なお現時点での被害状況につきましてはまた後ほど報道資料として提供させていただきますので、そちらをご覧いただければと思います。今回の災害対応の経緯であるとか今の被害状況について資料でまとめたものがありますので、それを提供させていただきます。

続きまして令和５年度の６月補正予算案についてです。お手元に資料がありますが、資料１、２とあって資料の１の方をご覧をいただければと思います。もう一つポイントというのがいってますでしょうか、１枚の。ありますかね。はい、その１枚のポイントというものでご説明をさせていただきます。まず６月の補正予算案の規模ですけれども、17 億 158 万円、全て一般会計となります。物価高騰に対する事業者への支援、そして地域経済の活性化、安全安心の確保、この三つを柱に予算を編成をいたします。主な内容ですが、これは４項目ありますけども、まず一つ目、物価高騰に対する事業者への支援で８億 7700 万円余になります。４月、５月の補正で予算で実施をしました市民生活への支援に引き続きまして、この６月の補正ではエネルギー、食料品価格等の物価高騰の影響を受ける中小企業や社会福祉施設などの幅広い事業者を支援をいたします。主な事業としては、中小企業等電気料金高騰対策支援事業４億 2000 万円。社会福祉施設等物価高騰対策支援事業、これが２億 6700 万円となります。続きまして地域経済の活性化ですけれども、これは１億 2550 万円計上しております。これは静岡市を代表するスポーツイベントであり、市の内外から多くの人が参加をしていただいていました静岡マラソンですけれども、これを５年ぶりに開催を

したいと考えております。もう一つはインバウンドの本格的な回復に向けて外国人旅行客向けの観光体験のコンテンツの造成、販売を実施するものです。事業費といたしましてはマラソンが１億円、観光再始動事業については２億 5500 万円を計上しております。続きまして安全安心の確保ですが、これにつきましては１億 2600 万円余を計上しております。これは令和４年の台風 15 号による浸水被害、そして今回の浸水被害を踏まえて巴川流域等の新たな治水対策を検討するとともに、水位、氾濫予測による市民の早期避難につながる防災情報を提供するシステムの検討などを実施をいたします。主な事業としましては巴川流域治水対策等事業、これが 8950 万円。建設発生土受入地確保事業、これは 1000 万円となります。そしてその他ですけれども、これは社会基盤の整備であるとか、あるいは市の交流会の開催ですね。こういったものになります。少しだけ補足をさせていただきますと、今の３の安全安心の確保のとこの建設発生土受入地確保事業というのがありますけれども、その中身についてこちらの予算案のポイントというものですけども、①ですね。その７ページにこの事業概要が　書いております。これは災害の時にいろんな発生土も出てきますし、それから　通常の建設関係での発生土も出てまいります。その発生土が今、盛り土の規制法等によって非常に厳しい規制が敷かれております。規制は非常に重要なことで、不法投棄等を防止するためには規制は重要なんですけども、それだけをやってるとどうしても処分場が確保できないという状況があります。従って、処分場が確保できない状況にあるものですから不法投棄に流れてしまう恐れがあります。これに対してこの民間事業者に全てお願いをするというのではなくて、市が積極的にその場所を探していこうというものです。従ってこれは今の資料の７ページの内容のところの上に書いてありますけども、建設発生土の受入地を民間から公募し、有識者の知見を踏まえて安全性を検証するとともに許可申請等を支援をするというものです。こういった取り組みをしていきたいと思っております。予算についての説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

◆司会
１点すいません、訂正をさせていただきます。今市長のほうから観光再始動事業２億 5500 万円というご発言がありましたけれども、正確には 2550 万円となりますのでよろしくお願いいたします。

◆市長
ごめんなさい。2550 万円で、これは国の事業を予定をしております。失礼いたしました。

◆司会
それでは記者の皆様から、ただ今の発表につきましてご質問をお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。ＮＨＫさん、お願いいたします。

◆ＮＨＫ
ＮＨＫです。まず市長、冒頭おっしゃった去年と今回の被害を踏まえた総点検の実施という部分ですけれども、逆に去年の台風被害でその後点検や応急対策取られてないってことがあるということなのか、どんなことをイメージされてるのかもう少しお聞かせいただけますか。

◆市長
はい、前回よりも今回は被害が少なかったわけですけども、やはり同じところで災害が発生してるというのがあります。従ってここはやはり弱点になってるというとこですね。前回の台風 15 号の災害の後、例えば河床が上がってるようなところはその後復旧として河床を下げたんですけども、その後また今回同じようにその部分が、河床が結果的には今上がってる状況の場所があります。そういうところはすぐに取っておかないと次の台風でまた、ごめんなさい。次の降雨によってまた災害が発生する可能性がありますので、そういう同じ場所で災害が発生したとこを特に緊急的にやりたいと思っています。それ以外にも今回災害には至らなかったんですけども、ぎりぎりのところまで水が来たところ。あるいは災害の中で床上には至らなかったんですけども床下浸水は発生してるようなところですね。そういうところを重点的に見て、緊急的に何かできないかということを検討していきたいと思っております。

◆ＮＨＫ
ありがとうございます。そして今回の補正予算案の巴川流域治水対策等事業ですけれども、まず前提としてほぼ県管理の河川に対して市がここまでやる意味ですとか必要性ですとか、どう考えていらっしゃいますでしょうか。

◆市長
今回の台風の時も、我々県管理の河川の水位をずっとよく見ていました。それでその水位の状況によってその中の支川のところの氾濫が発生する、あるいは浸水被害が発生するということがありますので、やはり県管理の河川がどのくらい排水力があるか、そういうところが非常に重要になってきます。これをなぜ市が分析するかというところですけども、これを県管理だからといって県にお任せをしている。例えば巴川の流域治水をしっかり進めてくださいという

総論的なお願いではなくて、我々として市民の生命、財産を直接私達は守っていくっていう使命がありますので、そうするとこういうシステムを作って、ここと ここが非常に弱点になっているので、その部分についてこういう対策があるんじゃないですかっていうところまで市が分析をして、それを県に対してこんな状況が生じるのでぜひここの対策を進めてくださいというようなお願いをしていきたいと思っています。そういうことによって、県に対してもより分かりやすい形で要請ができるということと、私達自身、静岡市自身がどこの場所で何が起きるのかということをはっきり、そういうシステムの中で知っておくということ、これが大事だと思ってます。それを知っておくと今回の災害、今回の豪雨に対しても同じですけども、それが分かっているものですから、どこに雨がどのくらい降るとどこでどんな浸水が発生しそうかという予測がある程度できてきますので、そうすると早めの避難を呼び掛けるとか、あるいは緊急的な水防活動を行うとか、そういったことができると思っています。ちょっと長くなりますけど、とにかく市民の生命、財産を守るという責任を持ってますから、やはりどこに弱点、脆弱性があるかをしっかり我々として把握するというのは市の市政として非常に大事なことだというふうに思っております。以上です。

◆ＮＨＫ
そしてこの事業の①の新たな治水対策の検討ですけれども、今のイメージとして例えば遊水地とか既存施設の運用方法にどういった改善の余地があると　考えてらっしゃいますか。

◆市長
はい、例えばですけども、今回下川原の下水の貯水管で実行してみたんですけども、どうもこれは効果がありそうだというのがありました。それは何かといいますと、下川原の貯水管は１万 3000 立方メートルぐらい。１万 3200 だったと思いますけども貯水能力があるんですが、今までは遊水地とおんなじ考え方ですね。地中の中に管を掘っておいて、そこの中に水を溜めるということですけども。
今までは管にずっと水が溜まっていっぱいになるか、溜まって、そして排水は天候が治まってから河川に排水するということをやっていたんですね。今回は緊急的に試してみましたけども、管に水が溜まるとすぐにポンプ排水を始めました。そうするとずっと、なぜポンプ排水できるかというと、まだ河川は低い水位にありますから、貯留管に入ってる水をどんどんこっち。こちらが貯留管でこちらが川だとすると、貯留管に入ってる水を河川の水位が低い間どんどん出してやるんですね。そうするとこちらの貯留管の容量はずっと確保できてるわ

けですね。これをやってみました。やってみると効果がありました。そうすると貯留管１本１万 3200 立方メートルなんですけどもそれが例えば、ここからはまだ計算してないんですけども、２本あるような効果が出るかもしれません。そういったことができるわけです。あるいは遊水地も同じで、遊水地にも水が溜まってるとこありますけども、これ事前放水、事前放流という言い方もありますけども、こういう強い降雨が予測される場合はそこで事前にポンプで排水する。あるいは水が溜まりだしたら、ポンプでどんどん早いうちから排水をしていくってやるとそこの容量が確保できます。長くなりますけど台風 15 号の時に何が課題だったかというと、麻機の遊水地ありますけれども、最初の長雨でずっと麻機遊水地の水位が上がってきて、その後最後にものすごい 100 ミリを超えるような雨がどんと降るから遊水地がもう貯留機能がなくなっちゃってるわけですね。それが弱点になります。だからそういうことがないように、早い段階から排水をして貯留機能を確保しておくとそういう貯留機能も有効にできます。そういったことをこれから取り組んでいきたいと思いますが、ただし麻機の遊水地は、これは県管理ですので県にお願いするしかありません。さっきの下川原の貯留管は市の下水道が管理してる施設ですから、これは緊急的にそれを試してみて効果があることを確認をしましたので、まずは市のできるところからそういうのがないかということをしっかり見ていきたいと思っております。以上です。

◆ＮＨＫ
もう一つ、この２の災害発生予測伝達システムのほうですけれども、こういったものは先行事例があるのか、こういったシステムが開発できる見通しがあるのか、それとも市として全国に先駆けるような形でやっていかれたいのか、いかがでしょうか。

◆市長
精度の問題があるんですけども、先行事例はあります。ただし精度をどこまで上げていくのかというのは課題になります。国土交通省もこういうのもっと大河川で開発する予定でやっておられますから、国土交通省とも相談をしながらこういったものを作っていきたいと思っています。ただ巴川水系の場合はなぜこれを今やろうかというと、降雨量とそして河川水位の上昇が非常に早いんですね。ですからあんまり複雑な計算をしなくてもいいということですね。山に降った雨が地下に浸透して、それからゆっくり出てくるようなものまでいろんな計算をしてやらないといけないですけど、大河川の場合は。ところが巴川の場合は降った雨はすぐ川に入っていって河川の水位が上がりますから、計算

非常にしやすいんですね。あと潮位との関係がありますけど、河川降雨と河川水位と、ごめんなさい、降雨量と河川水位と清水港の潮位の関係をうまく入れてやればそれほど難しくない、このシステム作りは難しくないんではないかと思います。従ってできると思っています。

◆ＮＨＫ
ありがとうございます。もう一つだけ、今回の大雨対応を振り返って、去年台風 15 号被害について静岡市としては田辺市政時代に検証して最終報告まで数十ページまとめたわけですけれども、難波市長の目から見て今回の市の対応、課題が残るところですとか、逆に台風 15 号の時聞いてたよりはうまくできたとか思われたことなど所感がありましたらお願いします。

◆市長
はい、被害が出てる中であまり良かったか悪かったかっていうのはちょっと言いにくいとこではありますけれども、率直に申し上げると迅速な対応はできたかなと思っています。その理由はどこにあるかというとまずタイムラインっていう、今はＮＨＫの報道でも一般的な言葉になって、タイムラインっていう注釈を付けることなく使われるような言葉になってますけども、時間の経過に応じて何をやっていったらいいかということをあらかじめ書いておいて行動に移すというものですね。河川、水害の場合は、台風の場合は特に台風の進路で雨の状況がある程度予測できますから、タイムラインでいつ頃例えば大雨警報が出そうだとか、あるいは土砂災害警戒情報が出そうだというのはある程度予測がつきますので、それを事前に想定をして、そして準備をしておくということが大事になります。今回はそれを徹底をして、６月１日の、ですから６月２日は大雨でしたけど、１日の夕方１７時だったと思いますけど、そこでみんなでタイムラインを確認して、こうこうこうしましょうねっていうことを決めておりました。実際にはそのタイムラインよりも、大体３時間ぐらい雨が先に来る状況になりました。従って次の日の朝ですけども、朝８時に対策本部会を開いて、もともと作ったタイムラインを３時間前倒しをしようということにしました。そのためには、これはもう避難所を開いたほうがいいということで１１時に避難所を開きましたけども、大雨警報が出たのは１１時２分だったか１１時３分だったか、そんな状況にありました。従って大雨警報が出る直前にすでに避難所を開いてるという状況でしたけども、これはタイムラインを作り、そして気象情報を見ながら、気象予報士が静岡市いますから気象予報士とも話をしながらこうこうこうだよという予報を見て、タイムラインを柔軟に変更していくっていうことですね。それをやっていきましたので、まずはそういう

災害対策本部会としての対応は良かったかなと思います。もう一つは情報の確認ですけども、やはり現場情報をしっかり取っていくということが大事なので。それから現場情報をいかに整理をして対処するかっていうことが大事ですので、それについても危機管理部がしっかりとした、システム的にやるように今回は作り上げていましたから、ある程度そのシステムが機能したと思っています。そういった面では被害は免れることはできませんけども、被害が発生した場所に例えば緊急的に建設局が行って土砂を取る。そして同じ時に消防も行って避難を呼び掛ける。あるいは救助に備えるっていうことですね。そういう連携体制もきっちりできていましたので、そういった面では危機管理総室が台風15、危機管理総室だけじゃなくて市政全体として、台風15号の災害の反省を踏まえて新しいシステムで運用するということが今回ある程度はうまくいったんではないかなと思ってます。ただまだまだ反省点もいろいろあります。例えば災害現場の情報を、これは市民の皆様がＳＮＳ等で発信されてるのをいち早く捉えてそれで対処する。例えば内牧川が相当危険な状況になってたっていうのはあって、それもＳＮＳで出てますけども、それを災害対策本部会の中でその情報を見てやるっていうことも必要だったと思います。それは反省点としてこれからすぐにやりたいと思っています。その他いろんなまだまだ反省点は今回見つかりましたから、常に災害対応が起きた後、少し落ち着いたら反省点を踏まえて改善をしていくって、それを繰り返し繰り返しやっていくことがある種練度といいますか、災害対応能力が上がっていくと思っております。以上です。

◆ＮＨＫ
ありがとうございました。

◆司会
その他、発表案件につきましてのご質問いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞
すいません、静岡新聞です。先程二度浸水被害に遭ったところで実施する総点検の関係なんですけれども、これ対象の地域は鳥坂とかが想定されると思うんですが、どの辺りを想定されているのかということと、具体的な早期にできる対策として河床を下げるというようなお話ありました。これ実際に川底の土砂を撤去するというようなイメージなのか、その辺りをお願いします。

◆市長
まず場所は鳥坂はもちろんありますけど、結構いろんなとこがありますから、今回個所数はかなり多いんです。大きな災害、床上浸水が３棟、床下が 116 っていうのは分かってますけども、河川被害も 59 カ所とか道路被害も 97 カ所とかそんな位ありますから、結構な数があります。そういうところでなぜそれが起きたのかをやっぱり見に行くことです。それで例えば油山のところの土砂が出てきましたけども、それは建設局がすぐに行って裏の砂防えん堤を見にいったところ、もうすでに砂防えん堤が満砂状態になってるんですね。それで今回落ちてきたから満砂になったんだと思いますけど。そうするとそこの砂防えん堤の裏の土砂は緊急に取っておかないと、次に来た時には機能しないことになります。そういうのを、砂防えん堤をもういくつか見て回ってますけども、そういうとこは背後えん堤の裏っかわが土砂でいっぱいになってるっていうとこが何カ所もありますから、そういうところを取るということですね。それから河床については、実際にもう上がってるところは緊急的に下げる。全部下げるというと大変ですから、特に弱点になってる例えば河川の合流部みたいなところで河床が上がってるというとこは実際に私自身も目で見ましたので、そういうところは緊急に上げていくっていうのが必要だと思います。これからまだ災害対応やっていて、今日も梅ケ島のところで朝孤立状態になってしまいましたけども、そういう災害の対応、まだ災害への対応中ですので、今すぐにはいきませんけど少し落ち着いたらそこの場所にどういう対策を取るのかっていうのは早めに実施していきたいと思っています。

◆司会
その他いかがでしょうか。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞
日経新聞です。静岡マラソンの件についてお伺いします。事業費が１９年大会はお聞きしたところ 4500 万円で今回は１億円と。もちろんスポンサーのところもあると思うんですが、５年ぶりの再開ということで普段以上に経済波及効果も大きい大会だと思いますので期待感であったりとか、これから来年度２４年大会ですか。開くかその段階になってまたスポンサーを引っ張ってくる目的なのか、それともこの事業費はそのまま市が同額のような大きな負担を継続的にしていくのかというところについてお聞かせください。

◆市長
今年度じゃなくて、そのさらに次の年ということです。それについては今年度は

今までやってなかったものを緊急にやるということにいたしましたので、これはどうしても市がこれぐらい負担していかないとなかなか実現できないと思っています。その後はマラソン開催をしてみて、これはやっぱり素晴らしいということが確認をされ、もっとスポンサー、支援しましょうという声が出るような開催の仕方にしたいと思っています。従ってその後は徐々に金額を下げていけるような開催方法を考えていきたいと思っています。

◆日経新聞
今緊急に開催がという話になりましたが、田辺市政の時に必要ないというふうな発言ここでも出たと思いますが、それに対しては難波市長になってやはり経済対策としてこれをやろうというふうに市長が決断したということでよろしいですか。

◆市長
市長というよりも、社会の大きな声だと思いますね。やっぱりマラソンをやってほしいという声が非常に多いんじゃないでしょうか。これはマラソンの愛好家だけではなくて、いろんなとこからそういう声が出ています。やはり経済効果は高いですし、そして経済効果っていうのは直接効果ですけど、それ以外に間接的な地域ブランドを上げていくとか、新たな地域ブランドを開発してそれを社会に認知していただくとか、そういう間接的効果も非常に大きいと思っていますので、そういった面ではやるべきだというふうに、みんなで社会の声を聞き、そして市の中で議論をして決めたということですね。やるべきでないというのは田辺前市長がどういうお考えでそういうふうに判断されたのか分かりませんけども、私自身はこれはやる価値のある事業だと思ってますし、市の職員もそういうふうに思ってると思います。

◆日経新聞
社会の大きな声というところに、具体的には商工団体とか市民とか。

◆市長
そうですね。商工団体からもいろんな要望書を頂いてますし、これは市議会の理解も、もちろん予算ですから得ていかないといけないと思いますけども、市議会の議員の方々からもそういう声も出ていましたし、いろんなところで、あんまりやらなくていいっていう声は聞かなかったですね。お金を１億円かけるのかどうかっていうところにはいろんな議論はもちろんあると思いますから、これはしっかりこれから審議をしていかないといけないと思っていますが、

静岡マラソンやらなくていいよっていうのはないことはないです。交通渋滞だとかいろんなことで声はありますけど、社会全体としてはやっぱりやったほうがいいということだと私は理解しています。

◆日経新聞
ありがとうございます。

◆司会
その他いかがでしょうか。では発表案件につきましては以上とさせていただきます。では幹事社質問に移りたいと思います。産経新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆産経新聞
６月の幹事は産経新聞であります。よろしくお願いいたします。質問、リニアの件でございます。リニア新幹線静岡工区の先進ボーリングについて、市長は５月の２４日の定例会見の中で個人の見解ということを前提としながら、静岡山梨県境までボーリング掘ることには問題がないと思うという考えをお示しになられました。その後、川勝平太知事が５月２９日の記者会見で、難波氏は理事を辞めて半年以上、担当を降りてから４年以上たっている（正しくは、担当は昨年まで）と。森知事から難波市長に対して、現在の県の考え方を説明するというような考えを知事が示されました。その後、県の説明というのをお受けになったということでございますけど、まずこれについてどのようなお考えかと。お考えが変わったりとかいうことがあるかということも含めましてお伺いしたいと思います。

◆市長
実際のところ森副知事が市役所に来られまして、５月３１日ですけれども、そしてそこで面談をいたしました。森副知事からは県の算定根拠資料と、それから論文をいくつか渡されました。それから県の専門部会にＪＲ東海が提出している資料、そういったものを渡されました。そこでその論文頂いたので、市長としてというよりも技術者魂としてといったほうがいいかもしれませんが、その日の夜すぐにそれを読んで、県の見解についての課題があるということを改めて確認をいたしました。県から資料頂いたのでどういう算定方法、計算方法に基づいて県が計算をしているか、ＪＲ東海がどういう考え方で計算をしているかってことは分かりました。そこは私の考え方とは違うとこがありますので、それについては今資料をまとめました。それで実は明日、県の専門部会が開かれますの

で、その場でどうもちょっと考えがみんなで共通認識がないようなので、このトンネルの県境付近で水を引っ張る問題というのは私が県の職員時代に問題提起したということもありますので、それが今みんな科学的根拠に基づいて理解をした上での議論というのがちょっと認識違いがあるなと思いましたので資料をまとめました。それで、ごめんなさい。資料をまとめるのはさっき言いましたけど。明日、県の専門部会で説明をさせてほしいと。それは市長ではなくて、一技術者として説明をさせてほしいと申し上げましたが、県からはそれはできないというのが回答でした。それはなぜかというと、その県の専門部会というのはあくまでＪＲと専門家の間でやってる、委員の間でやってる会議なので、そこには私が出るのはふさわしくないというようなお考えのように伺いました。
ただ私自身は心配をしてるわけで、やっぱり科学的根拠に基づいて同じ共通理解の下で議論がされていないんではないかと。同じ共通理解というのは県もそうですしＪＲ東海もそうですし、あとは社会ですね。非常に科学的、工学的話なのでなかなか分かりにくい話がされてると思うんです。分かりにくい話を分からないまま、みんななんとなく理解しようとしている状況になってしまっているので、そこの分かりやすさのところをしっかり説明をしたいと思ってそういう申し入れをしました。しかし断られましたので、それではということで今日２時からになりますけども、この市の記者クラブのところで、広報のところで改めてご説明をさせていただきたいと思っています。あくまでこれは市長ではなくて一技術者としてご説明をしたいと思っています。視覚的な理解という、タイトルは今ここにはありませんけども。市長としてといいながらじゃなくてということなんですけども、山の中のトンネルの掘削の先端付近、切羽ですね。切羽での湧水現象について、視覚的な理解のためのご説明ということで発表させていただきます。サブタイトルとして、科学的工学的根拠に基づく対話が円滑に進むためにということですね。やはり科学的な工学的な議論はされてる、対話がされてるんですけども、分かりにくいんです。だからやはり視覚的に、なるほど、そういう現象が起きてるのかというのをご理解をいただくのが一番いいんじゃないかなと。これは専門家同士のお話で決まるというよりも、社会全体でなるほどねっていうふうに思っていただくところまでＪＲ東海も県も説明する必要があると私は思っていますので、その理解に繋がるために視覚的に、あるいは直感的に理解をできるようなご説明をさせていただきたいと思っております。

◆産経新聞
後ほどそのご説明をいただけるということであれば、その内容について深くここでお伺いすることは避けようかと思いますが、先程ちょっとお話の中に見解が異なっている可能性もあると。それが共通認識という言葉もありましたけれ

ども、ＪＲ東海であるとか県とか社会との共通認識。その算定とか共通認識っていうのは要するに先進工事、先進長尺ボーリングによって出てくる水の量の問題になるわけですか。

◆市長
はい。水の量の計算方法が、はっきり申し上げると適切ではないと思っています。使ってる式が違うというところまで申し上げていいんではないかなと。それは前回こんなことをやったと思いますけども、これがどっかの境界だとして、こちらからこうやって掘削をしてくるわけです。水がここまで来るとここの断面から水が入っていくわけですけど、この現象を私は前から問題にしてるわけです。ところが県とＪＲが計算してる式では、ここじゃないんです。こっちから入っていく水を計算してる式なんです。だからこっちでここから入る形式で計算をしていかないといけないんですね。それの説明です。それが視覚的に理解できるようにしたいと思ってますので。ペットボトルとか大根を使ってご説明をしたいと思ってます。

◆産経新聞
はい、分かりました。さらに聞きたいのはやまやまでありますけれども、とりあえずこの件についてはこんな感じにいたしまして、それでは他にあのこの件。

◆司会
ではただ今の幹事社質問に関連するご質問その他ございますでしょうか。いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡
テレビ静岡です。記者向けに今日２時から説明されるというの分かったんですけれども、県の専門部会の出席を断られたということで、県にこの難波さんの資料、また考え方を伝えるすべというのは今現状ないということでよろしいでしょうか。

◆市長
これは２時からご説明をいたしますけど、それに先立って森副知事にはわざわざお越しをいただきましたので、その資料、私の考えはこういうことですよっていうのをお送りをしたいと。したいというよりも、いたします。

◆テレビ静岡
それは市長自ら森副知事のところに出向いて説明するということでしょうか。

◆市長
残念ながら２時からでなかなかまだ準備。明日説明させてくれるかなと思っていたら説明はさせていただけないので急遽今日の２時からに変えましたから、これからこの記者会見が終わってから少し準備をしてやりますので、直接持ってはいけないので、誰か代わりに行ってもらいたいと思っています。

◆テレビ静岡
分かりました。ありがとうございます。

◆司会
その他いかがでしょうか。幹事社質問関連のご質問いかがでしょうか。よろしいですか。ではそれ以外のご質問があればお受けをしたいと思います。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞
日経新聞です。２５日に、先月の。ENEOS さんと面会をしたと、社長の齊藤さんと面会をしたということですが、その時には年内にも調査結果をまとめたいということでしたが、それが終わって現状どれぐらいから調査が開始できるかみたいな目途みたいな立ってますでしょうか。

◆市長
調査は、現地の調査ですね。これは企画はいますか。ちょっと確認をしてみてください。すいません。いつから始めるかっていうのはこれから発注行為が入りますので、発注準備を今してるとこだと。入札ですよね。入札の準備をしていますので、それがいつの時期になるかは私は確認をしていませんので、今調べています。

◆企画課
すいません。企画課になります。調査ですけれども、現在プロポーザルの募集をかけているところでございます。その後業者決まりましたら発注をかけまして、いったんは調査期間は年度内というふうにしておりますけれども、年内にはある程度中間報告ということでまとめて出してほしいということでお願いをして

おりますので、今のところそういったスケジュール感で進めてまいりたいと考えております。以上です。

◆日経新聞
ありがとうございます。すいません。追加でそこに対して。今プロポーザルの募集をかけてるっていうことですけど、募集をかけてるということは調査の内容についてはある程度固まっているというふうに認識しているんですが、どのような調査を行うというふうに決めておりますか。

◆企画課
調査の内容につきましてはこれまでも申し上げてきたとおりですけれども、その土地の利活用の方法ですとか、あるいは交通の関係ですとか、それから地盤の関係です。土壌汚染ですとか津波の対策ですとか、そういったものをこれから調査していくということになりますので、その内容については今回の仕様書の中でも明示をしているということでございます。以上です。

◆日経新聞
ありがとうございます。

◆司会
その他いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ
静岡朝日テレビと申します。よろしくお願いします。今回の雨の被害について、この後、概要みたいなものを発表していただけるということで、おそらく床上浸水だとか床下浸水とかそういった数字が発表になると思うんですが、それとは別に例えば農作物の被害。こういったものは市の方では確認をされているんでしょうか。

◆市長
現在確認中です。農作物の被害は少し調査が遅れていますので、今日もまだ十分な被害報告ができないと思います。それについては現在確認中です。

◆静岡朝日テレビ
やっぱり去年の台風に比べるとちょっと被害が少ないってお話あったんですが、そちらのほうもちょっと前よりは少ないようなイメージなんでしょうか。

◆市長
それはかなり少ないと思います。どの位まで水位が上がったかというところですけれども、やはりその、例えば 10 センチ 20 センチは上がっても農作物は被害を受けますけれども、浸水域が非常に少なかったということがありますから、農作物の被害も前回から比べると格段に小さいと思っています。ただし苦しんでおられる方はありますから、早急にそれについて調べて、そしてその後どういう対策ができていくのか、対応できるのかというのは今検討中です。

◆静岡朝日テレビ
ありがとうございます。

◆司会
その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

◆市長
ありがとうございました。

◆司会
ありがとうございました。次回は６月の２３日の金曜日午前１１時からの予定となります。